



第57期 報告書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで



ローム株式会社

証券コード 6963



代表取締役社長 澤村 諭

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに、第57期(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)における概況をご報告申し上げます。

業績の概要

当期においては、原油価格の下落や欧州景気の停滞などの懸念材料がありましたが、景気拡大が続く米国や緩やかに景気回復を続ける日本、また依然として高い成長率を維持する中国などに牽引され、全体として景気は堅調に推移しました。

エレクトロニクス業界におきましては、自動車関連市場が、米国や欧州などでの販売が堅調なことやエレクトロニクス製品の実装率向上により好調に推移したほか、産業機器市場やスマートフォン市場も堅調に推移しました。

ロームグループにおきましては、成長を続ける自動車関連市場や産業機器市場向けに、各種電源LSIやパワー半導体などのラインアップ強化を進めるとともに、新技術の開発にも取り組みました。

また、スマートフォンやタブレットPC向けには、世界最小トランジスタ、小型・高機能センサなどの開発と製品シリーズ拡充に努めたほか、タブレットPC向けに受注が好調なインテル®Atom™プロセッサ用パワーマネジメントLSIの生産体制の強化や次世代タブレットPC向けのLSIの開発も進めまし

た。さらに、海外市場での販売体制の強化などにも継続して取り組みました。

このような状況のもと、当期の売上高は、前期比9.6%増の3,627億7千2百万円となりました。また、営業利益については、売上が増加したことによる利益の増加に加え、コスト削減効果もあり、前期比64.2%増の388億円となりました。経常利益につきましては、為替差益の寄与もあり、前期比64.9%増の592億1千8百万円、当期純利益は前期比41.1%増の452億9千6百万円と、それぞれ増益となりました。

経営方針・事業戦略

●経営の基本方針

ロームグループは、世界市場をリードする製品の開発を進めるとともに、独自の生産技術を駆使することによりコスト競争力のある高品質な製品を永続かつ大量に供給し、世界の電子部品市場のリーダーシップをとっていくことを基本方針としております。また、こうした事業活動によって生み出される付加価値が、事業投資のための内部留保と、株主・従業員・

地域社会などのステークホルダーの皆様適切に還元される必要があると考えております。そして、これによりロームグループの株式を投資家の皆様にとって魅力溢れるものにしていきたいと考えております。

●中長期的な経営戦略

ロームグループは、グローバルに変化を続ける市場に対応し、創業50年を超えた次の50年を「NEXT50」と位置付け、中長期的に新たな成長の基盤固めを行うため、以下の4つの重点戦略を進めております。

<1>4つの成長エンジン戦略

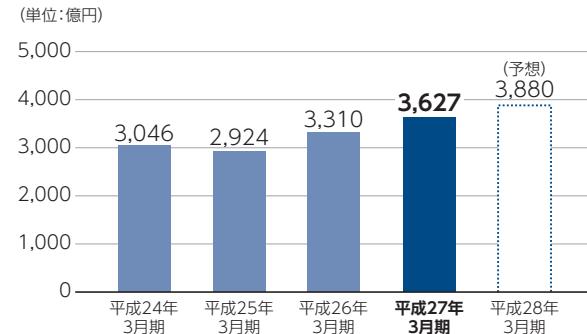
①ラピスセミコンダクタ株式会社との「LSIシナジー効果」

ロームが得意とするアナログ・リニア技術とラピスセミコンダクタが得意とするデジタル技術を組み合わせ、より幅広いニーズに対応できるシステムソリューションを引き続き強化してまいります。

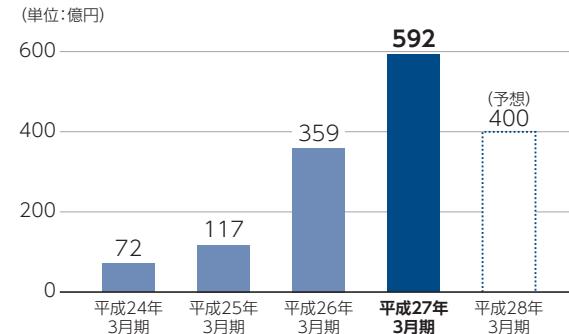
②SiCをはじめとする「パワーデバイス製品」等

従来のシリコン半導体と比較して大幅な低損失と高温での安定動作を実現できるSiCデバイスの開発とラインアップの

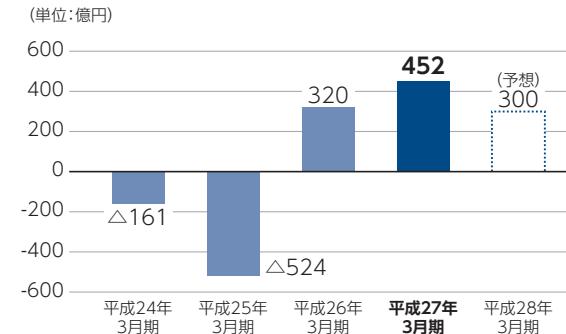
売上高



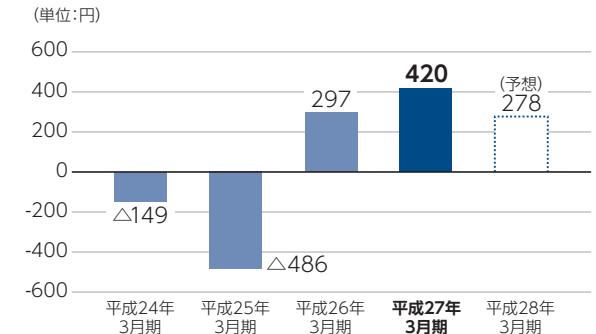
経常利益



当期純利益又は純損失(△)



1株当たり当期純利益又は純損失(△)



強化、また、シリコンのパワー半導体についても、高効率・高信頼製品のラインアップ強化をそれぞれ進めています。

③ LED素子やLEDドライバLSIなどの「オプティカルデバイス関連製品」

市場が拡大しているLED市場、オプティカルデバイス関連市場において、モバイル機器向けの超小型LEDや車載用高信頼LED、また、LED照明用電源モジュールやLEDドライバLSIなどの製品ラインアップの充実を進めています。

④ 幅広いラインアップを誇る「センサ製品」

センサ関連デバイス市場が広がりを見せる中、ロームの生産技術やセンサコントロール技術を活かし、MEMS加速度センサや薄膜ピエゾ素子※などセンサ関連デバイスの開発を進めています。

※薄膜ピエゾ素子

ピエゾ素子とは、圧電体(ピエゾ素子)に加えられた圧力を電圧に変換する、またはその逆の動作を行う素子で、センサのほか発振回路などにも使われています。

② 自動車、産業機器など、成長市場の強化戦略

電子化が進む自動車関連や産業機器などの成長を続ける市場は、ロームグループが得意とする高品質、高信頼性、安定的な供給が求められる市場です。ロームグループでは、継続して生産体制の強化や品質、信頼性の向上に取り組み、売上比率のアップを目指します。

③ 海外系顧客への販売強化戦略

市場のグローバル化が急速に進む中で、海外系顧客の開拓、深耕等、営業活動の強化を進めています。開発、営業、技術サポートまで、海外のお客様のニーズに合う体制作りを進め、売上の拡大を目指しています。

④ 既存商品の強化戦略

新分野の強化に加え、現在のロームグループの売上を支える既存製品についても、高機能化、小型化など顧客のニーズを先取りし、業界をリードする新製品、新技術の開発を進めるとともに、高効率・高信頼の生産システムの構築による安定供給体制の構築を進め、市場シェアの拡大と収益の確保に努めています。

利益配分についての考え方

ロームグループでは設備投資や研究開発、M&Aなどに積極的に資金を投入し、長期的視点に立って業績拡大にまい進することで株主の皆様のご期待に応えてまいりたいと考えております。

一方で、財務状況や資金需要、投資家の皆様からのご期待も考慮した上で利益配分のありかたを検討し、総合的な企業価値の向上に努めてまいりたいと考えております。

このような観点から検討した結果、ロームグループでは、2015年3月期から3年間を目処に、各年度におけるフリーキャッシュフロー※の100%を株主還元することといたします。具体的には、株式配当は連結配当性向30%を目安として安定的・継続的に行ない、加えて、各年度の利益等の状況に応じて自己株式の取得等の手段を組み合わせる機動的な還元策を講じてまいります。

※フリーキャッシュフローの簡易な算定方法として、当期純利益に減価償却費を加えたものから、設備投資額及びM&Aの為の資本的支出を差し引いたものを用的予定です。

こうした中でロームグループでは、引き続き市場のニーズを先取りした高付加価値製品の開発とタイムリーな市場への投入に取り組んでまいります。また、自動車、産業機器などの市場の長期的な成長に備えて安定した供給体制の構築を進めるとともに、さらなる高品質、高信頼性の実現と生産体制の効率化を進め、売上の増加と利益体質の強化に努めてまいります。

このような状況を踏まえ、平成28年3月期の連結業績予想につきましては、下記を見込んでおります。

業績予想(連結)

(単位:百万円)

	平成27年3月期	平成28年3月期予想	前期比増減率
売上高	362,772	388,000	+7.0%
営業利益	38,800	42,000	+8.2%
経常利益	59,218	40,000	△32.5%
当期純利益	45,296	30,000	△33.8%

※平成28年3月期の為替レートは、1米ドル=115.00円を前提としております。

株主の皆様には、一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年6月

代表取締役社長 澤村 諭

総資産

(単位:億円)



純資産

(単位:億円)



今後の見通し

世界経済は、中国における景気鈍化などの懸念材料はありますが、堅調を続ける米国経済、景気回復の兆しがみられる欧州経済など、おおむね堅調に推移するものと思われます。

エレクトロニクス市場におきましても、自動車・産業機器市場、またスマートフォン市場などを中心に、当面堅調に推移するものと思われます。一方で、薄型テレビなどのデジタルAV機器市場の回復は鈍く、またPC市場についても、普及率の上昇などに伴い調整が続くものと思われます。

セグメント別の概況

LSI



主な製品

- アナログ
- ロジック
- メモリ
- ASIC
- ファンダリ



- 売上高 1,699億1千6百万円 (前期比10.2%増)
- セグメント利益 222億8千6百万円 (前期比141.8%増)

自動車及び産業機器市場では、汎用電源LSIやLEDドライバLSI、カーオーディオ用システム電源LSIなどの採用が進み、売上が増加しました。

IT関連市場では、タブレットPC向けの電源LSIや、スマートフォン向けのレンズドライバLSIが売上を伸ばしました。

AV機器市場については、デジタルカメラ市場の低迷が続いたものの、オーディオ向けシステムLSIやテレビ向けの電源LSIなどが売上を伸ばしました。

売上高



半導体素子



主な製品

- ダイオード
- トランジスタ
- 発光ダイオード
- 半導体レーザ



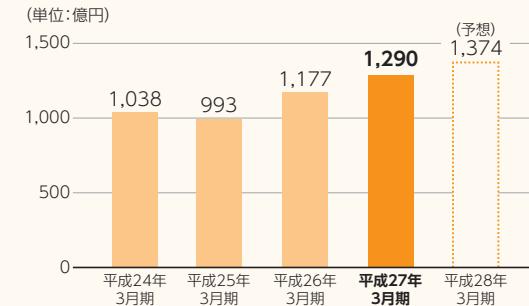
- 売上高 1,290億4千7百万円 (前期比9.6%増)
- セグメント利益 159億9百万円 (前期比12.9%増)

自動車、産業機器向けにMOSFETやパワーダイオードの売上が好調に推移しました。また、タブレットPC、スマートフォン市場向けなどに小信号ダイオードの売上が好調に推移しました。

SiCデバイス・モジュールがエアコンや太陽光発電装置向けなどに順調に売上を伸ばしました。

オプティカルデバイス関連では、カーオーディオ市場向け発光ダイオード、プリンタ市場向け半導体レーザが売上を伸ばしました。

売上高



モジュール



主な製品

- プリントヘッド
- パワーモジュール
- オプティカル・モジュール



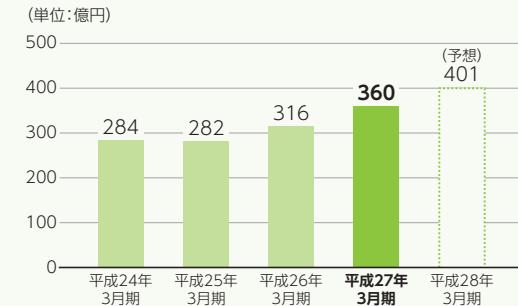
- 売上高 360億8千3百万円 (前期比14.0%増)
- セグメント利益 20億8千6百万円 (前期比44.6%増)

プリントヘッドにつきましては、モバイル決済端末向けや中国市場向けのイメージセンサヘッドの売上が好調に推移しました。

また、スマートフォン向けに複数のセンサを一つのパッケージに納めた小型センサモジュールが大きく売上を伸ばしました。

パワーモジュールにつきましては、カメラ市場向け電源モジュールが、市場低迷の影響を受けました。

売上高

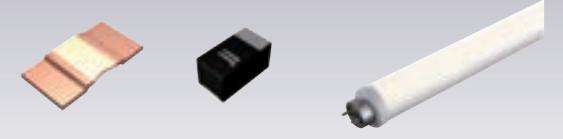


その他



主な製品

- 抵抗器
- タンタルコンデンサ
- ライティング (照明)



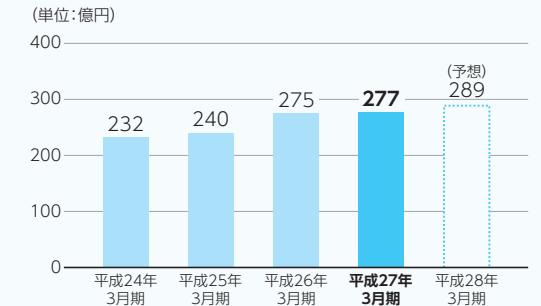
- 売上高 277億2千5百万円 (前期比0.8%増)
- セグメント損失 9億円 (前期はセグメント損失7億9千6百万円)

抵抗器につきましては、スマートフォンや自動車関連市場向けの売上が好調に推移しました。

タンタルコンデンサにつきましては、スマートフォンやタブレットPC向けの超小型部品を中心に売上が堅調に推移しました。

ライティング (照明) につきましては、センサネットワーク技術など、半導体メーカーとしての総合力を活かしてBtoCビジネスからBtoBビジネスへのシフトを進めました。

売上高



世界初！ SiC 駆動用 AC/DC コンバータ制御 IC を開発 産業機器の省電力化、小型化に貢献

ロームは、大電力（高電圧×大電流）を扱うインバータやサーボなどの産業機器で採用が進む SiC-MOSFET 駆動用 AC/DC コンバータ制御 IC「BD7682FJ-LB」を開発しました。これまでは、個別の部品を組み合わせるコンバータ制御回路を構成していましたが、今回専用 IC を新たに開発したことで、実装面積の削減や電力変換効率の改善につながり、SiC デバイスの特長をフルに引き出すことが可能となります。



AC/DC コンバータ制御 IC 「BD7682FJ-LB」

アイドリングストップ搭載車の車載マイコン向け汎用システム電源を開発 エンジン始動時でもマイコン動作に影響を与えない高性能仕様



システム電源 LSI 「BD39001EKV-C」

ロームは、HEV や EV を始めとする自動車の電動パワーステアリング、燃料噴射装置などに使われる高機能な各種マイコンに最適なシステム電源「BD39001EKV-C」を開発しました。独自技術により、バッテリー電圧が不安定になるエンジン始動時にも安定した電圧供給を可能にしてマイコンの誤動作などを防ぐほか、電力変換効率を従来品比で最大 5% 改善しました。さらに、汎用性を高めた設計をすることで様々なマイコンに対応することが可能です。

ラピスセミコンダクタがノイズ／高温環境に強い 家電・産業機器向け 16bit ローパワーマイコンを開発

ロームグループのラピスセミコンダクタ株式会社は、モーターやコンプレッサ、IHヒーターなどノイズを発生する部品を搭載する産業機器など向けに、ノイズ／高温環境に強い 16bit ローパワーマイコン ML620100 シリーズ「ML620150 ファミリ」を開発しました。独自のノイズ耐性回路により国際規格「IEC61000-4-2」をクリアしたことに加えて、大電力のパワー半導体の各種制御機能を内蔵、炊飯器やホームベーカリーなどの家電製品にも最適です。



16bit ローパワーマイコン ML620100 シリーズ「ML620150 ファミリ」

LSI、ディスクリート製品の生産能力の強化を図るため タイ、マレーシアの生産拠点に新工場を建設

ロームグループでは、日本及び海外 7 ヶ国においてグローバルな生産体制を構築していますが、需要が拡大する LSI と、ダイオード等のディスクリート製品の生産能力強化のため、タイの製造子会社 ROHM Integrated Systems (Thailand) Co., Ltd. 及びマレーシアの製造子会社 ROHM-Wako Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd. に、それぞれ新工場を建設することを決定しました。これにより、タイ工場では LSI（後工程）の生産能力が約 1.4 倍、マレーシア工場ではダイオードの生産能力が約 2 倍となります。ロームグループでは、今後も市場の状況をとらえ、生産能力の強化を進めるとともに、多拠点生産体制や在庫管理、設備の防災化などを徹底し、お客様への安定供給に努めてまいります。



タイ工場新棟 完成予想図（平成 27 年 12 月竣工予定）



マレーシア工場新棟 完成予想図（平成 28 年 8 月竣工予定）

新会社「ローム滋賀株式会社」を設立 （ルネサス滋賀工場の一部を取得）

ロームは、ルネサス エレクトロニクス株式会社の子会社であるルネサスセミコンダクタ マニファクチュアリング株式会社の滋賀工場の一部（8 インチライン）を取得することを決定しました。取得時期は 2016 年 2 月を予定しており、ロームの 100% 子会社として新会社「ローム滋賀株式会社」を設立

し、運営していく予定です。パワーデバイス及びセンサデバイス市場の拡大が見込まれる中、将来の半導体の需要増加に備え、ローム滋賀をロームグループのパワー半導体及び圧電 MEMS の主力生産拠点として活用していきます。

連結財務諸表

連結貸借対照表

科目	当期 (平成27年3月31日)	前期 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産	523,376	461,745
現金及び預金	280,756	272,982
受取手形及び売掛金	76,721	67,536
電子記録債権	2,132	2,214
有価証券	42,998	15,282
商品及び製品	31,962	25,533
仕掛品	38,975	39,739
原材料及び貯蔵品	29,405	25,761
繰延税金資産	9,374	4,170
未収還付法人税等	546	269
その他	10,794	8,475
貸倒引当金	△292	△220
固定資産	341,003	292,661
有形固定資産	231,293	212,297
建物及び構築物	221,833	213,747
機械装置及び運搬具	511,008	465,152
工具、器具及び備品	51,459	45,585
土地	64,039	63,960
建設仮勘定	18,746	15,828
減価償却累計額	△635,792	△591,977
無形固定資産	5,401	3,005
のれん	33	66
その他	5,368	2,938
投資その他の資産	104,309	77,359
投資有価証券	73,462	58,841
退職給付に係る資産	1,948	723
繰延税金資産	3,836	5,525
その他	25,457	12,556
貸倒引当金	△394	△287
資産合計	864,380	754,407

(単位：百万円)

科目	当期 (平成27年3月31日)	前期 (平成26年3月31日)
負債の部		
流動負債	69,660	52,954
支払手形及び買掛金	11,764	12,324
電子記録債務	8,026	7,065
未払金	19,282	12,595
未払法人税等	6,638	3,636
繰延税金負債	—	45
その他	23,948	17,285
固定負債	42,286	38,065
繰延税金負債	29,617	25,764
退職給付に係る負債	9,251	9,948
その他	3,416	2,351
負債合計	111,946	91,019
純資産の部		
株主資本	738,750	700,250
資本金	86,969	86,969
資本剰余金	102,403	102,403
利益剰余金	599,518	561,002
自己株式	△50,141	△50,125
その他の包括利益累計額	13,186	△37,266
その他有価証券評価差額金	24,442	13,347
為替換算調整勘定	△7,308	△45,788
退職給付に係る調整累計額	△3,948	△4,825
少数株主持分	496	404
純資産合計	752,433	663,387
負債純資産合計	864,380	754,407

連結損益計算書

科目	当期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)	前期 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
売上高	362,772	331,087
売上原価	235,042	227,014
売上総利益	127,729	104,073
販売費及び一般管理費	88,929	80,437
営業利益	38,800	23,635
営業外収益	20,935	12,602
営業外費用	518	322
経常利益	59,218	35,915
特別利益	2,797	6,728
特別損失	6,776	2,463
税金等調整前当期純利益	55,239	40,179
法人税、住民税及び事業税	13,382	5,936
過年度法人税等	384	2,497
法人税等調整額	△3,869	△378
法人税等合計	9,897	8,056
少数株主損益調整前当期純利益	45,342	32,123
少数株主利益	45	31
当期純利益	45,296	32,091

(単位：百万円)

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	当期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)	前期 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	72,381	59,134
投資活動によるキャッシュ・フロー	△100,638	△21,621
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,171	△3,954
現金及び現金同等物に係る換算差額	18,705	9,786
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△17,722	43,345
現金及び現金同等物の期首残高	240,391	197,045
現金及び現金同等物の期末残高	222,668	240,391

(単位：百万円)

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

ステークホルダーの皆様との
相互信頼関係を強化し、
ロームグループの持続的な成長と、
社会の健全な発展に努めます。



取締役
管理本部・CSR本部 本部長 山崎 雅彦

会社の品質のさらなる向上へ向けCSR本部を設置

ロームグループでは、QCDS (品質、コスト、納期、サービス) などの「製品品質」にCSR (企業の社会的責任) を重要な要素とする「経営品質」を加えた「会社の品質」をさらに向上させるため、2014年11月、ローム株式会社にCSR本部を設置しました。ロームグループでは創業時から、「企業目的」、「経営基本方針」に基づき、CSRを実践してきました。今後もグループ全体で「国連グローバル・コンパクト」、「ISO26000」、「EICC (電子業界CSRアライアンス) 行動規範」といったステークホルダーの皆様の声が反映された国際規範に基づく活動を指標として織り込み、事業活動におけるCSRの取り組みを強化してまいります。

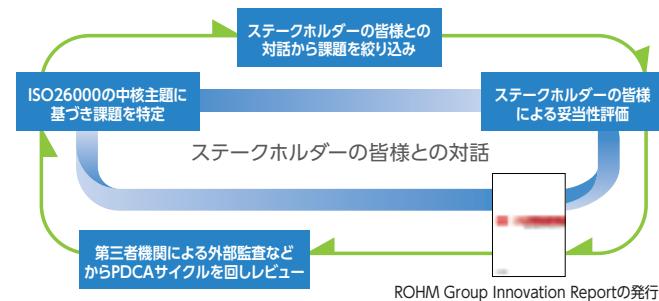


CSRの重点課題を特定し実践状況を検証

企業への社会的要請の厳しさが増すなか、ロームグループでは、社内外のステークホルダーの皆様のご意見やご要望、ご関心、ご懸念事項を検討し、6つの「CSR重点課題」を特定しました。

また、これらの実践状況を客観的な立場から検証するため、第三者監査機関による、EICC行動規範に基づくEICC監査を2013年度より国内外主要生産拠点にて自主的に受審しています。

CSR重点課題の特定プロセス



6つの「CSR重点課題」

1. 革新的な製品による社会的課題の解決

CO₂排出などによる気候変動、資源・エネルギー問題など、省エネルギー化の必要性が高まるなか、ロームグループでは、さまざまな社会課題を解決するための革新的な新製品、新技術の開発を進めています。

2. 高品質な製品の安定供給

高品質な製品を安定的に供給する体制を維持するため、組織体制の強化や全社的なBCP (事業継続計画) 訓練などを実施しています。

3. 国際社会に貢献できるグローバル人財の育成

世界の各地域における異なる背景、価値観を受容し、協働して新しい価値を生み出すことができる多様な人財を育成しています。

4. バリューチェーンにおける人権尊重の徹底と労働慣行などへの配慮

国際規範に基づき、人権や労働慣行に配慮しながら事業活動を推進しています。また、バリューチェーンにおいても、EICC行動規範などの遵守に努めています。

5. 地球環境に配慮した事業活動の推進

環境問題を解決する革新的製品の開発や、製造工程における環境負荷を全生産拠点において低減することで、持続可能な社会の実現に努めています。

6. 事業を通じた地域コミュニティへの貢献

グローバルに事業を展開する上で、コミュニティとの対話を通じた地域の発展・活性化が重要と認識し、事業地域における社会的課題を解決する取り組みを進めています。

ステークホルダーの皆様との対話

ロームグループでは、事業を展開する上で、ステークホルダーの皆様との対話を重視しており、対話の機会をグローバルに設けています。



※ワイガヤ会議
ワイワイガヤガヤと、自由に意見を交わす会議。
※ワールドカフェ
短時間でたくさんの人の意見を集め、全員が発言することができる会議。

文化・交流 音楽文化への貢献・地域への文化支援活動
ロームシアター京都

ロームは長年にわたり音楽芸術を支援してきました。50年間京都市民の皆様へ愛されてきた「京都会館」が再整備されるにあたり、その新しいコンセプトに共感し、今後、50年間のネーミングライツの形でサポートさせていただくことになり、京都市とロームは、ネーミングライツ名称を「ロームシアター京都」に決定しました。2016年1月にオープンする「ロームシアター京都」が日本を代表する文化の殿堂として広く愛されることを願っています。



ロームシアター京都完成予想図
 (所在地:京都市左京区岡崎)

教育 未来のエンジニアへ向けた活動
NHK 大学ロボコン・ABU (アジア太平洋放送連合) ロボコンへの協賛

ロームでは若きエンジニアを支援するために、さまざまな活動に協賛しています。NHK大学ロボコン・ABU(アジア太平洋放送連合)ロボコンもそのひとつです。2014年8月に開催された「ABUアジア太平洋ロボコン2014インド・ブネ大会」では17カ国の代表が自作の親子ロボット2台を駆使し、対戦形式で課題の達成スピードを競いました。



課題を競う学生の様子



ロームは、音楽文化の普及、発展に寄与することを目的に1991年に設立された「公益財団法人 ローム ミュージックファンデーション」の音楽文化普及活動を支援しています。2015年も、音楽を学ぶ学生に対する奨学援助、若手の音楽家を育成するための「小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト」、国際交流と若手音楽家の育成を目的とした「京都・国際音楽学生フェスティバル」などへの支援を行っています。



小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXIII
 ラヴェル: 歌劇「子どもと魔法」の様子 (撮影:大窪道治)

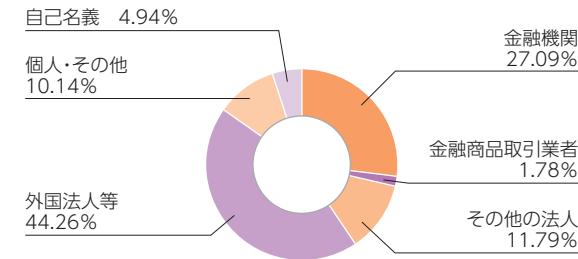


京都・国際音楽学生フェスティバル2015 (撮影:佐々木卓夫)

■ 株式の状況

発行可能株式総数 300,000,000株
 発行済株式総数 113,400,000株 (自己株式5,596,799株を含む)
 株主数 23,973名

■ 所有者別株式分布状況

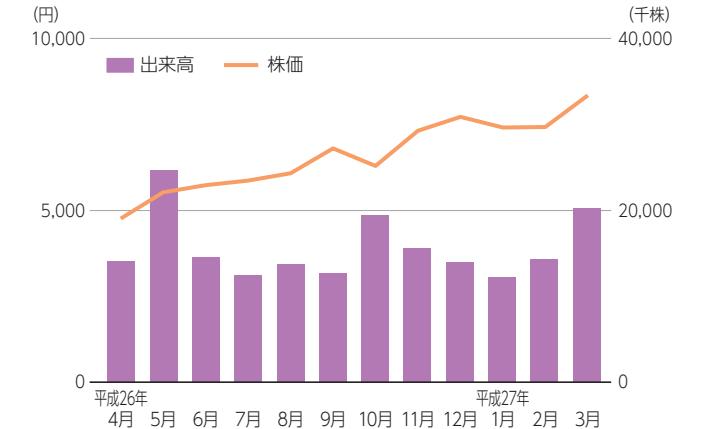


■ 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	8,470	7.85
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	8,134	7.54
公益財団法人 ロームミュージックファンデーション	8,000	7.42
株式会社 京都銀行	2,606	2.41
佐藤 研一郎	2,405	2.23
SAJAP	1,945	1.80
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口9)	1,565	1.45
BBH BOSTON CUSTODIAN FOR BLACKROCK GLOBAL ALLOCATION FUND, INC. 620313	1,420	1.31
STATE STREET BANK WEST CLIENT-TREATY 505234	1,377	1.27
THE BANK OF NEW YORK MELLON SA/NV 10	1,375	1.27

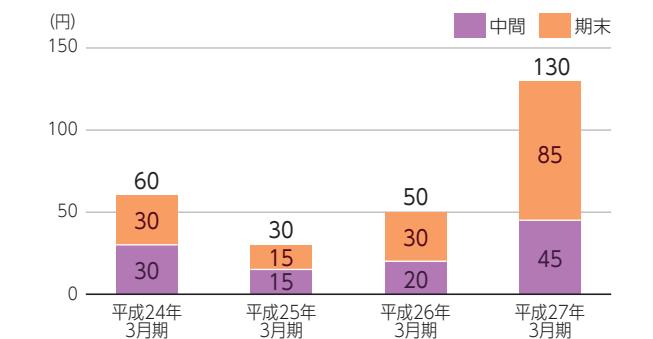
(注) 1.持株数は千株未満を、持株比率は小数点第2位未満を、それぞれ切り捨てて表示しております。
 2.当社の自己株式(5,596千株)は、上表から除外しております。
 3.持株比率は発行済株式の総数から自己株式を除いた数に基づき、算出しております。

■ 株価と出来高



(注) 株価は各月の取引日の終値の単純平均を、出来高は月間の推移を表示しております。

■ 配当金の推移



ローム ホームページ
<http://www.rohm.co.jp>

投資家情報
<http://www.rohm.co.jp/web/japan/investor-relations>





社名について

半導体メーカー・ローム (ROHM) の社名由来は創業当時の生産品目である抵抗器 (Resistor) の頭文字「R」に抵抗値の単位Ω [ohm] を組み合わせたものです。「R」は信頼性 (Reliability) にも通じており、品質を第一とするロームの企業姿勢を示しています。

■ 会社概要

社名 ローム株式会社
(ROHM COMPANY LIMITED)

本社 〒615-8585 京都市右京区西院溝崎町21
TEL (075) 311-2121
FAX (075) 315-0172

設立年月日 昭和33年9月17日

資本金 86,969百万円

従業員数 3,134名 (ロームグループ20,843名)

■ 役員

(平成27年6月26日現在)

※取締役社長 澤村 諭

取締役 藤原 忠信
佐々山 英一
松本 功
東 克己
山崎 雅彦
阪井 正樹
飯田 淳
川本 八郎
西岡 幸一

監査役(常勤) 柴田 義明
岩田 秀夫

監査役 玉生 靖人
村尾 慎哉
喜多村 晴雄

(注)

- ※印は、代表取締役であります。
- 取締役 川本八郎及び西岡幸一は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
- 監査役の5名は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
- 当社は、取締役 川本八郎、西岡幸一の両氏、及び監査役の5名を、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、当該取引所に届け出ております。

■ 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

株主確定の基準日 定時株主総会、期末配当 3月31日
中間配当 9月30日

単元株式数 100株

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号
TEL (0120) 094-777 (通話料無料)

金融商品取引所 東京証券取引所

公告方法 以下の当社ホームページに掲載しております。
<http://www.rohm.co.jp>

(ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします)

【株式に関するお手続きについて】

「住所・氏名のご変更」、「配当金受け取り方法のご指定」、「単元未満株式の買取請求」、「単元未満株式の買増請求」等各種お手続きの窓口は、次のとおりとなります。

なお、株券電子化までに証券保管振替機構(ほふり)を利用されなかった株式につきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社に管理口座(以下、「特別口座」といいます)で管理されております。

●証券会社等の口座にて保有されている株式にかかるお手続き
→お取引のある証券会社等にご照会ください。

●特別口座にて保有されている株式にかかるお手続き
→特別口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社に照会ください。

なお、下記のご照会等につきましては、株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。

- 「支払期間経過後の配当金に関するご照会」
- 「郵便物等の発送と返戻に関するご照会」
- 「株式事務に関する一般的なお問合せ」

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

住所：〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号
テレホンセンター：(0120) 094-777 (通話料無料) (受付時間：平日9:00～17:00)
ホームページ：<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

ローム株式会社

本社 〒615-8585 京都市右京区西院溝崎町21
TEL (075) 311-2121 FAX (075) 315-0172
URL <http://www.rohm.co.jp>

